

調査研究部報告書情報シート

記入年月日: 2021年4月14日

情報No.	K-21-1	情報区分	プラ循環協研究報告	ファイリング場所	プラ循環協書棚
-------	--------	------	-----------	----------	---------

題名 報告書名	プラスチック製食品容器包装の環境貢献に関する調査研究報告書 — 備蓄食品事例： アルファ米、クッキー —				
報告年月	2021年3月	ページ数	83	著者・出版元	プラ循環協

【キーワード】

処理方式		要素技術	
樹脂類別		化学物質名	
形状別		用途別	
法規制		国別	日本

調査 研究 内容	<p>■主旨 機能性包装が適用された備蓄食品について、環境負荷削減効果に係る定量的解析を行った。</p> <p>■内容 災害備蓄食品に関する報告書 (MICI) に示された備蓄期間終了後の有効活用と廃棄の割合に基づき、備蓄食品として販売されているアルファ米、クッキーについて備蓄から賞味期限までの消費シナリオを、機能性包装、一般包装に適用し、LCAを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 機能単位：備蓄期間1年相当における備蓄食品1個の提供 ▶ 対象製品の包装形態：機能性プラスチック包装、一般包装
調査 研究 結果	<p>■結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 機能性包装食品の環境負荷削減効果が高いことを明らかにすることができた。 備蓄食品（アルファ米、クッキー）について、機能単位とした1年分相当の消費シナリオを機能性プラスチック包装および一般包装に適用した場合、環境負荷（GHG排出量）は賞味期限1年の一般包装品の負荷を基準として、アルファ米は機能性包装製品において賞味期限3年の場合、57%の削減効果、賞味期限5年の場合、74%の削減効果となった。同様にクッキーについては機能性包装製品において賞味期限3年の場合、65%の削減効果、賞味期限5年の場合では79%の削減効果であった。 ▶ 日本全体に備蓄されているアルファ米とクッキーの総量（推計）に基づき、全ての包装を賞味期限5年の機能性包装に置き換えた場合のGHG削減貢献の可能性量は、約 57,000t-CO2e と推算された。 ▶ 備蓄食品において推奨されている備蓄量を最低3日分について、1日あたりの備蓄量をアルファ米2食、クッキー1食の組み合わせを適用すると、日本全体でのGHG排出削減の可能性量推計は、約 140,000t-CO2e と推算された。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 社会的に欠かすことのできない災害対策物資に係わる備蓄食品においてプラスチック製容器包装が提供する環境負荷削減への貢献を示すことができた。